射水市指定有形民俗文化財

大門神社・枇杷首神社 秋季祭礼の曳山行事

きらら射水観光NAVI

富山県 射水市

お問い合わせ先
射水市教育委員会 生涯学習・スポーツ課
〒939-0294 富山県射水市新開発410番地1
TEL：0766-51-6637 FAX：0766-51-6663
E-mail：bunkazai@city.imizu.lg.jp

R5.3

庄川

万葉集に雄神川と詠まれた飛騨山地を源流とする清流です。アユ釣りのスポットとして知られ、秋にはサケが遡上します。

大門大橋

江戸時代以来の歴史を有する大門と高岡をつなぐ橋です。もとは現在の橋から130m下流に位置し、両岸の旧北陸道を結んでいました。

旧北陸道

小杉へと続く旧北陸道には、建物の正面を平らに揃えた昭和レトロな看板建築の街並みが残されています。

越中大門駅

大正12年(1923)に開業した駅です。海外のアーティストが制作したリアルな駅の動画が話題となりました。

越中大門駅から大門神社まで 900m 徒歩約 12分
大門神社から枇杷首神社まで 800m 徒歩約 10分
枇杷首神社から井口神社まで 600m 徒歩約 8分

大門神社・枇杷首神社秋季祭礼（曳山巡行）当日の流れ

花山

- 9:00 大門神社前（曳山お祓い）
- 9:30 花山曳き揃え 見どころ
- 10:00 出発式・花山巡行開始
  庄川橋渡し 見どころ
- 10:30 枇杷首神社前（曳山お祓い）
- 11:00 庄川橋渡し 見どころ
- 11:30 大門神社前（花山曳き揃え）
- 12:30 西町
- 13:00 中町
- 14:00 田町 見どころ
- 15:00 花山曳き別れ

提灯山

- 18:15 大門神社前（提灯山曳き揃え）見どころ
- 18:30 提灯山出発（枇杷首曳き別れ）
- 19:00 中町（枇杷首町内曳き開始）
- 19:30 田町 見どころ
- 20:30 提灯山曳き別れ
- 21:00 西町・中町・田町町内曳き開始

大門神社・枇杷首神社の行事

- 10:30 枇杷首神社例祭（枇杷首神社拝殿）
- 11:00 大門神社例祭（大門神社拝殿）
- 13:00 大門神社神輿出御
- 17:00 大門神社神輿還御

- 花山巡行路
- 提灯山巡行路
- ❶～⑬ 見どころ
- 公衆トイレ
- 駐車場（臨時駐車場も含みます）

- 行事の流れは、おおよその実施（通過）時間帯を記したものです。
- 提灯山は、西町・中町・田町の3町と、枇杷首が、庄川両岸のそれぞれの町内を別々に巡行します。
- 巡行路や時間帯は、天候その他の理由により変更される場合があります。

⑪ 大門大橋の欄干で、枇杷首曳山が西町・中町・田町曳山のお神楽に送られて曳き別れます。

⑫ 西町・中町・田町の3基の提灯山が一列に連なり、田町方面に向かって巡行します。

⑬ 拍子木の合図で提灯山が勢い良く回転し、曳き別れとなります。この後、各町に戻って町内曳きが行われます。

大門カイトパーク

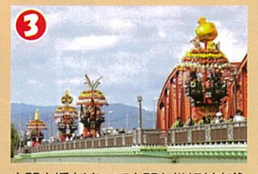
毎年5月第3日曜日の越中大門凧まつりでは、全国から集まった色とりどりの大凧が空に舞い上がります。

井口神社

10月21日の祭礼日に、放生津紺屋町から大門川原町、さらに枇杷首・蓮花寺へと引き継がれた曳山が公開されています。

❶ 西町・中町・田町の3町の花山が大門神社へ向かう際に子供曳きが行われます。

❷ 各町の曳山が、大門神社の鳥居前でお祓いを受けます。出発式の後、花山の巡行が始まります。



❸ 大門大橋を渡って大門と枇杷首を往復します。4基の花山が一列に連なって橋を渡る様子が見どころです。

❹ 庄川沿いの見晴らしの良い場所です。花山は枇杷首神社まで進んでお祓いを受けます。

❺ 午前の巡行を終え、大門神社前に曳き揃えられた4基の花山を間近に見ることができます。

❻ 花山が午後の巡行を始めた後、大門神社を出発した神輿渡御の一行が氏子区域を廻ります。

❼ 田町方面に曳山が進みます。巡行路両側の家々から祝儀が出され、右に左に「ヨッコ」が繰り返されます。

❽ 田町の東端で曳山はヨッコで勢い良く向きを変えます。ここで花山が曳き別れとなります。

❾ 提灯山に装いをあらためた4基の曳山が大門神社前に曳き揃えられ、幻想的な姿を見せます。

❿ 枇杷首の提灯山は、町に戻って単独で町内曳きを行います。最後に枇杷首神社で閉扉式が行われます。

大門神社・枇杷首神社秋季祭礼の曳山行事

大門神社・枇杷首神社の曳山行事は、射水市大門地区にある大門神社と枇杷首神社の秋季祭礼（10月のスポーツの日前日）で行われ、4基の曳山が軋み音を響かせながら巡行します。春から秋にかけて県内各地で行われる曳山行事の最後を飾ります。

祭礼の舞台 大門・枇杷首

大門・枇杷首は、それぞれ射水市西部を流れる庄川の対岸に位置する地区です。江戸時代の承応2年（1653）に大門新町が誕生し、両地区を通る旧北陸道が往還道（加賀藩主の参勤交代経路）となります。寛文6年（1666）に大門大橋が架橋されると、この地は旧北陸道と庄川が交差する宿場町、水陸交通・物資運搬の拠点として発展しました。

庄川と大門・枇杷首地区（南から）

大門神社と枇杷首神社

庄川東岸の大門神社は、大門新町の神明宮と水天宮を合祀して、明治35年（1902）に大門神社となりました。大門・大門新地区の産土社で、主神として天照大神、配神として豊受大神と水波能売神を祀っています。

庄川西岸の枇杷首神社は、枇杷首地区の山王社・毘沙門宮と、南の百目木地区の神明社を合祀して、明治時代に枇杷首神社となりました。枇杷首地区の産土社であり、主神として大己貴命、配神として天照大神・豊受大神・白山大神を祀っています。

大門神社

枇杷首神社

大門・枇杷首の曳山

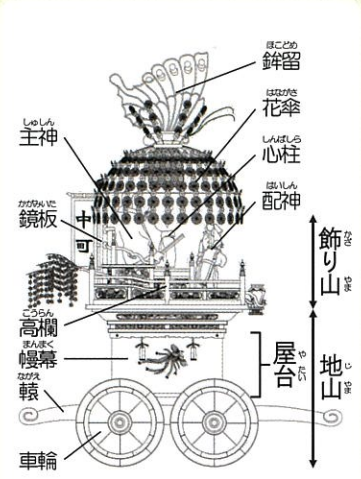
大門・枇杷首曳山の創始は明治時代の初期と伝えられます。江戸時代末に大門大橋が庄川両側まで延伸されると、大門・枇杷首地区を通る北陸道の交通量が増大し、大門の町は以前にも増して活況をみせるようになりました。こうした経済的な発展を背景に、明治10年（1877）頃までに相次いで曳山が建造されたと考えられます。

曳山の形状は、中央に立てた心柱を鉾留と花傘で飾った「花傘山」です。

車輪・轅と囃子方が乗り込む屋台からなる「地山」があり、その上に主神・配神を安置する「飾り山」を載せています。

夜になると、花傘の内側と高欄の外側に丸形提灯、地山の四隅に小田原提灯をそれぞれ吊り下げて「提灯山」の姿となります。

曳山の形状や落ち着きのある囃子、運行の様子など、近隣の高岡御車山からの影響が色濃くみられる曳山です。



曳山の各部名称

主神と配神

主神は、各町の産土神として飾り山に乗せる等身大の衣装人形です。配神は、主神と対になるカラクリ人形で、囃子に合わせてデングリ返しや太鼓を叩くなどの所作をします。

人形は、祭りの前に山宿（公民館など）に安置して供物を供えて祀られ、開眼式を行って神を迎えます。曳山巡行が終わると、人形に迎えた神を送り返す閉眼式が行われます。

主神と配神（西町）

ヨッコ

曳山が曲がり角に差し掛かると、拍子木持ちの「ヨッコ」の掛け声とともに曳き子が力を込めて曳山前方の轅を担ぎ上げ、そのまま前輪を浮かせながら方向を変えます。

ヨッコで方向転換

曳山囃子と温習会

曳山囃子には、本囃子・お神楽・戻り囃子と余興の曲が数曲あります。かつて近隣の農村から囃子方を招いていたこともあり、獅子舞囃子の影響もみられます。

毎年2月には、温習会が開催され、各町の囃子方が日頃の練習成果を披露しています。

演奏する囃子方（温習会）

西町

鉾留：千枚分銅
主神：楠木正成・楠木正行
配神：太鼓打ちの猿

主神の楠木正成･正行親子に合わせ、欄間彫刻も、太刀や弓などの武具で揃えられています。

中町

鉾留：胡蝶
主神：布袋和尚
配神：唐子懸垂回転

四周の欄間には、雪遊びや獅子舞、鬼ごっこを楽しむ四季折々の唐子の姿が刻まれています。

田町

鉾留：打出の小槌
主神：恵比須
配神：オンナノコ（唐子童子）

金糸で龍と鳳凰の刺繍をあしらった豪華な幔幕が目を惹きます。龍の目は玉眼となっています。

枇杷首

鉾留：釣鐘
主神：尉と姥
配神：―

直径2mの大きな車輪が特徴です。2輪の曳山は、県内でも枇杷首と高岡二番町の2基のみです。